

【生徒の意見、提案など】	生徒からの質問	【市長の考えなど】	担当課
<p>【誰もが暮らしやすい西尾】 最近、市内で外国の方を多く見かけるようになりました。仕事をしている人、観光目的で来日している人など、目的は様々だと思います。寺津中学校にも、外国語を母国語とする友達がいます。ポルトガル語やベトナム語です。その友達は、日本語を話すことが上手になり、学校生活にも慣れてきました。最初は、日本語や生活習慣が分からず、困ることがとても多かったです。友達の両親は、日本語を話せないため、病院に行く時などは、通訳として友達が付き添います。その場合は、学校を休まないといけないこともあるようです。友達家族の様子から、日本語が話せない、日常生活を送る上でとても不自由になってしまうと思いました。西尾市においても、外国籍住民が今後増加すると思われるので、大きな課題だと感じています。日本語が上手く話せない、理解できない外国人でも、日常生活に困らず、偏見や差別意識のない西尾市になることを期待します。身近な場面では、市役所などの公共施設やスーパーなどの大型店舗を中心に多言語表示の整備を進め、外国籍住民の皆さんの日常生活をサポートし、誰もが暮らしやすい西尾市にしたいと思います。</p> <p>【提案1】 公共施設における多言語表示を整備することです。施設の案内表示はもちろんですが、ゴミの出し方や保育園入園など各種制度について説明したパンフレットやチラシなどの表記も含まれます。市役所や学校といった施設、また、ごみの出し方、病気やケガをした場合など、生活に欠かせない事ばかりだと思います。日本語が話せなくても、案内看板が多言語表示されるだけで、随分生活しやすくなるはずで、これは、修学旅行で東京へ行ったときに感じたことで、西尾もそうゆう取組が進めばいいなと感じました。</p>	<p>【質問1】 現在、西尾市在住の外国籍住民の割合を教えてください。また、昨年度の外国人観光客はどのくらいいましたか。今後、西尾市で生活する外国人や観光のために来訪する外国人は増加していく傾向にありますか。</p> <p>【質問2】 広報紙や観光パンフレット等の多言語表記の現状を教えてください。また、外国人と日本人が地域で共生していくためには、ルールが必要だと思いますが、市は、生活する上で必要なルール等の啓発を行っています。また、西尾市には、多文化共生の計画はありますか。</p> <p>【質問3】 市民ならば誰もが知っている西尾祇園祭などのイベントにおいて、外国人と日本人が互いに交流できる企画を考え、誰もが気軽に多文化に触れ合う事ができる企画を考えてみませんか。また、現在行っている外国人と日本人が交流できるイベントがあれば、どんな内容か教えてください。</p>	<p>【市長】 外国人だけでなく、障害を持った人たちなども含み誰もが暮らしやすいまちづくりは本当に大切に、2019年度は特に力をいれていきたいと考えています。長期滞在も含め日本全体に外国人が増えています。なぜかという、人口全体が減少していくことと、少子高齢化が関係しています。高齢者が増え、一番働き盛りの年代が少なくなっています。経済というのは、一番働き盛りの人達が産業活動することで生産したり、消費したりすることで成長していきます。その層が減少していくことは、経済が縮小してしまうということです。経済が縮小すると、国や西尾市が市政運営していくために必要な税金が減少してしまいます。働き盛りが減り、高齢者が増えると年金などをどう確保するのか大きな課題があります。これらの問題を解決するために、生まれる子供の数を増やそうと取り組んでいますが、それは、20年、30年経過してその効果が出てくる話なので、当面のひとつの方法として、日本で働いてくれる外国人を増やそうと外国人に期待を寄せています。また、短期滞在になりますが、日本に観光で来ていただき、お金を使ってもらおうと取り組んでいます。直接的に人口は増えないかもしれませんが、産業活動は活性化し経済にはプラスになります。このような背景があり、今、外国人が増えています。</p> <p>【市長】 外国籍住民の割合は、西尾の人口が17万人、そのうち外国人が9千人なので、5%を少し超えるぐらいの割合です。ただ、ここ最近の1年を見ると1年間で1,000人ぐらい増加しています。来年度には確実に1万人は超えると思います。外国人観光客については、西尾市では、市内に宿泊した数で把握しており、平成27年が19,000人、28年が1111,000人、29年が10,000人超えるぐらいなので、日本全体に見て外国人が増えている割には、西尾市を訪れる数は減少している状況です。しかし、市内の企業に聞いてみると働く人が少なく困っているという事なので、雇用の部分から、今後外国人は増加していくと思います。外国人観光客の皆さんに西尾市に来ていただき、お金を落としてもらうことが西尾市としてもプラスが大きいので、外国人観光客は増やしていきたいと考えています。</p>	<p>地域支援協働課 商工観光課</p>

【生徒の意見、提案など】	生徒からの質問	【市長の考えなど】	担当課
<p>【提案2】 広報や市ホームページの多言語表記です。今の時代、困ったらずインターネットや携帯電話で調べるはずで。特に、市のホームページ上には、西尾で生活する上で欠かせない情報がたくさんあるはずで。僕もそうですが、一度インターネットで調べ、役に立ったと思えば、次からも必ずその方法で情報を調べようと考えます。多言語表記すれば、外国籍住民の皆さんも、常に最新の情報を得ることができるはずで。</p> <p>【提案3】 市が行うイベント、例えば、西尾祇園祭など多くの市民が集まる機会を使い、国際交流の場を企画してはどうでしょうか。各国の文化を紹介したスペースや、外国料理のキッチンカーを呼ぶなど工夫すれば、日本人も外国人の皆さんも互いの食文化を感じられ、交流も深まると思います。普段、外国の文化に触れることも少ないので、いつもとは違ったお祭りの雰囲気、市民も楽しく参加しながら言葉の壁を越えた交流をすることができ、お互いに理解し合い、偏見や差別意識を減らすこともできると思います。これらの取り組みによって、一人ひとりが、言語や文化の違いを正しく理解すれば、日常生活に困らず、トラブルも減ると思います。市民一人ひとりが、互いの文化や生活スタイルを理解し、地域全体で課題を解決できるようになればいいなと思います。そうすれば、誰もが暮らしやすい西尾市になると思います。外国籍住民の皆さんと共に、思いやりのある西尾のまちを作っていけると僕は思います。</p>		<p>【市長】 広報にしおは、日本語版以外にポルトガル語版を作成しています。また、外国人向けの生活情報誌が6か国語対応になっています。英語、ポルトガル語、中国語、ベトナム語、インドネシア語、タガログ語（フィリピンの言葉）に対応しています。西尾市に在住している外国人の中で多いのは、ブラジル人なのでポルトガル語版は需要があります。その他中国人、ベトナム人、インドネシア人などが多いので、その割合の多いところに対応した言語訳で対応していますが、すべての言語に対応することは、なかなか難しいところもあります。外国人と日本人が地域で共生していくためのルールは必要です。現在も、日本の文化や生活様式に馴染んでいただくとうと市として取り組みをしているところではあります。</p> <p>【地域振興部長】 愛知県が今年度、多文化共生に関する5か年計画を策定しました。外国人の共生に関する団体の方からも何とか計画を策定してほしいと要望も出ているところ。県が策定してから本市においても考えていこうと思っていましたので、近いうちには、関係者の皆さまと情報を共有し、計画策定を検討していきたいと思っています。</p> <p>【市長】 西尾祇園祭に限ったことではありませんが、イベントの実施主体として、実行委員会形式でやっているところがあります。市職員も入っていますが、各種団体が集まり、イベントをどう運営していこうかと考える組織です。外国人が増加しているので、外国人と交流できるイベントは計画できませんかという提案はしていきたいと考えています。現在、西尾市国際交流協会が中心となり外国人との交流や活動を中心に取り組みをしていただいています。具体的には、高校生を対象とした姉妹都市ニュージーランドポリルア市への訪問団派遣や外国人の方に日本の文化に触れていただく機会として「浴衣で盆踊り」という企画、また、防災は命を守る大切な事なので、防災に関するセミナーも行っています。それ以外には日本語講座を開催する中で、日本の文化などに触れる機会を作り、日本での生活に馴染んでいただきたいと各種取り組みを行っています。</p>	<p>地域支援協働課 商工観光課</p>